

## 『わが愛の中で生きよ』 ヨハネの福音書 15章1～11節 2017.1.1(元旦礼拝説教より)

『わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。』 ヨハネの福音書15章5節

❶いのちを失った教会(クリスチャン)へ…日本は宣教150年を経ても信者はわずか0.5%…信仰の命を失った？ヨハネ福音書が書かれた90年代、クリスチャンは迫害で離散、異端との闘いが激化して衰退。イエス様に留まらない人生は「投げ捨てられ、枯れて、燃えてしまう(6節)」。

❷わたしにとどまっていなさい！『とどまる』とは、「住む、ずっと一緒」の意。私たちと、ずっと寄り添い、愛し合う「相思相愛」を何よりも願われるイエス様にとどまる方法は二つ！①御言葉にとどまり(15:7)、②その愛の中にとどまる(15:9)こと。人の愛は身勝手な自己愛。本当の愛は与え、相手の幸せをひたすら願う！イエス様の『7を70倍するまで(無限に)赦す(マタイ18:22)』愛とは、自分の罪に気づいて神に立ち返る者を何度でも赦し、いつでも迎え入れる愛！御言を聴き、心に留め、生活に結びつける人生は、詩篇1:2～3の通りになる！

❸豊かな実を結ぶために手入れされよ！御言葉を心に留め、主のご愛に生きる者に神がされることは二つ！「実を結ばない枝は取り除き、実を結ぶ枝は、もっと豊かに実を結ぶように刈り込み…(2節)」。「何でも願いを叶え、豊かに実を結ばせてくださる(7～8節)」。「取り除く」は「持ち上げる」の意。ほっとくと地面に垂れて泥水につかり腐ってしまう枝を、農夫は持ち上げ、泥を洗い、支える。主の手入れを受け入れる者は、必ず実を結ぶ！『刈り込む』は、『清潔にする／汚れを清める』の意。その人の本来の姿を回復されること！ポロポロ垢まみれの放蕩息子は帰還後、風呂、着替え、散髪、靴…で、父の子としての本来の姿が回復！これこそ神の手入れ！何でも願いが叶うとは、主に結ばれた者が神の御旨だけを求めるようになり、その御旨が実現することを意味している。あらゆる艱難の中で主の平安に守られ、どんな苦手な人とも向き合えて、災いを恐れず、生ける限り、慈しみと恵みで満ち溢れ、常に主の懐に憩う人生こそ神の御旨！

★あなたは神の子として、神様に喜ばれないものを捨ててサッパリしているだろうか？今年、御声に聴き、従い、主の愛の中で生きて、豊かな実を結ぶために、日々あなたがなすべきことは何だろうか？